

ジュニア部門／絵画

審査評

昨年に引き続き、コロナ禍にあって子どもたちの作品にも心の動きが鮮明に表れていたように感じます。作品からは、日常の自由を奪われ、制限された生活の中で一人一人が表現したいものを見つけ、表現方法を精一杯工夫している様子や苦悩している様子がうかがえましました。

このような状況の中で、閉ざされた心や閉塞感を暗い色調で表現していたり、逆に明るく過ごしたい気持ちをモチーフや色調に代弁させていたり、今までにない表現の工夫をあちらこちらに発見することができ、子どもたちの感情の豊かさに気づかされました。

子どもたちの作品からは、「どんな状況におかれても自分たちの表現の自由は奪えない」との心の叫びが聞こえてきそうです。これからも私たち大人は、こんな気持ちを心に秘めた感性豊かで前向きに生きる子どもたちをしっかりと応援していきたいものです。

(広島県造形教育連盟会長 橋本 忍)